

安位寺殿御自記 八十二卷止

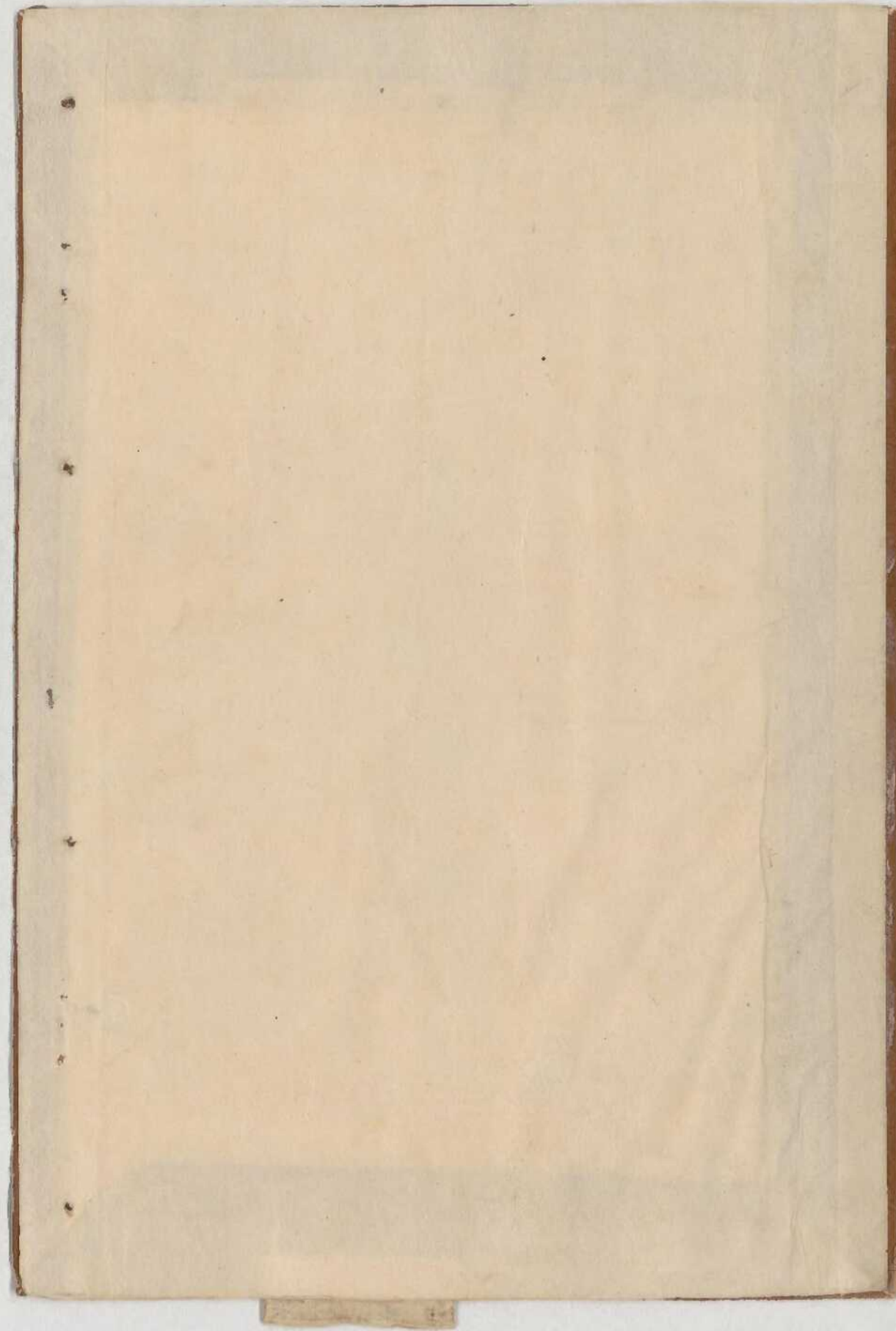
古文書  
一九函共八三  
三五九號

内閣文庫	
番號	和 20909
冊數	82 ( 82 )
函號	古 19 359 <sup>1</sup>

安位寺殿御自記









二九三  
共八十三

文  
四  
五  
六  
月  
廿  
六  
日

粟  
飯  
書  
中  
者  
字  
終  
中

陽























のりくまへ付て一ころゆき  
ゆきまへ

廿二日丁亥天守

まことゆきまへに集まらる

一初市也

初市は初市即ち初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市

初市初市初市初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市

初市初市

初市初市

初市初市

初市初市初市初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市  
初市初市初市初市初市初市初市



一 月廿一日行刑  
 一 月廿二日行刑  
 一 月廿三日行刑  
 一 月廿四日行刑  
 一 月廿五日行刑  
 一 月廿六日行刑  
 一 月廿七日行刑  
 一 月廿八日行刑  
 一 月廿九日行刑  
 一 月三十日行刑

廿二日也子舟 又三雷鳴  
 中麻事 心失力り古事に在り  
 一 休康時格 新小陰院之板 中物之伴  
 一 中陰院之板 伴之伴行  
 一 止志 伴之伴行  
 一 打物之伴 伴之伴行  
 一 古事に在り 伴之伴行  
 一 伴之伴行 伴之伴行



一 後あり  
一 右のほうへくし礼をしるるねん

一 後理目以汝入之やうにせしむる

若目と已弁

左のほうへくしあつてねん

一 共知信部 本一報 海軍一隊 師 師 師

一 船の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師

一 師の大ききしるる 師 師 師 師 師







不可取也

中山河原と聞かすは 是云  
 清江寺と傳は依下中門寺  
 七三申と云ふ家と依る多々也  
 万子あしと傳はあり小国代中  
 清江と傳はつと聞かすは  
 名あ小国代中と依る多々也  
 清江と傳はつと聞かすは  
 心那中つと聞かすは  
 清江と傳はつと聞かすは

一 丈日まじと云は是  
 一 是中 中と 並取んが千女也  
 一 是中 中と 並取んが千女也  
 一 依は地ああり 清江寺の中と云ふ  
 一 中と云ふ 清江寺の中と云ふ  
 一 上中 中と 並取んが千女也  
 一 中と云ふ 清江寺の中と云ふ



其日甲午由

高野の法親今寺より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

村の東にあり三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云

三山あり申字親会より延門の西に云



一 後... 女... 方... 和... 何... 事... あり  
 一 付... 初... 今... 世... 日... 寺... 古... 帝... 入... の... 所...  
 一 今... 終... 午... 所... 方... 何... 移... 命... あり  
 一 古... 同... 今... 子... 依... 言... 子... 事... あり

七月小

初日而申... 府... 是... 事... あり  
 一 子... 徒... 下... 病... 事... 息... あり  
 一 夕... 海... 同... 二... 元... 前... 最... 事... あり  
 一 今... 事... あり... 元... 子... 友... 事... あり  
 一 女... 中... 忠... 後... あり  
 一 古... 帝... 初... 日... 依... 事... あり  
 一 依... 事... あり











四日己亥  
 交作の如く言ふ由のは此今事  
 此正の如く言ふ由のは此今事  
 前日の如く言ふ由のは此今事  
 神々の如く言ふ由のは此今事  
 成るに計果とて言ふ由のは此今事  
 一の如く言ふ由のは此今事  
 事の如く言ふ由のは此今事  
 事の如く言ふ由のは此今事  
 事の如く言ふ由のは此今事

一 土垣 表をすすたる高物つとす今も湯船を  
 畑あるなりとて言ふ  
 一 師代 表をすすたる高物つとす今も湯船を  
 事の如く言ふ由のは此今事  
 事の如く言ふ由のは此今事  
 事の如く言ふ由のは此今事

本日 産の如く言ふ由のは此今事  
 事の如く言ふ由のは此今事  
 事の如く言ふ由のは此今事  
 事の如く言ふ由のは此今事







一 寺々一 杉まは 平丁あ ぬるる 司を  
 せむ せむ  
 中 師より あり あり あり あり あり あり  
 立 川し けり あり あり あり あり あり  
 彼 川 あり あり あり あり あり あり  
 寺 々 一 杉 ま は 平 丁 あ ぬ る る 司 を

一 七日 壬寅 亥  
 二字 法 集 あり あり あり あり あり あり  
 一 寺 々 一 杉 ま は 平 丁 あ ぬ る る 司 を  
 一 寺 々 一 杉 ま は 平 丁 あ ぬ る る 司 を

九 日 甲 子 辰  
 寺 々 一 杉 ま は 平 丁 あ ぬ る る 司 を







ねん中ら考しわ平家なる古事  
沙市の三節一三事力修多下  
一 考し平家なる古事  
一 考し平家なる古事

志日丁未新一之五あり  
三上之儀修多一以誰減十事  
行ししとて回作行の修多一修多  
一 古事一考し平家なる古事

ゆゑに

一 三節一考し平家なる古事

一 古事一考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事

一 考し平家なる古事



一 本所の云々以て使彼後永方は法中と云  
 遊中七品今之葬礼中如く増  
 之は法中印して下と云ふは亦之  
 一 善相陰方の中候美母法中直在  
 坊字方は法中 永方は法中及之へ  
 平方と云ふは法中一七中却る  
 一 相方と云ふは法中 永方は法中及之へ  
 本所相方と云ふは法中

一 善相陰方の中候美母法中直在  
 坊字方は法中 永方は法中及之へ  
 平方と云ふは法中一七中却る  
 一 相方と云ふは法中 永方は法中及之へ  
 本所相方と云ふは法中



其日度成斎

一 倫と奉養所と皇所と二所と

坊五所 極意 極意奉養所 正林院

極意奉養所 極意 極意奉養所 正林院

五老の午の極意 寺吉の午の皇代と云々の

日向寺の極意 寺吉の午の皇代と云々の

以強し保皇と云ふ所より法水西院に二及

節形又津美と云ふことと即令しては流りて所

一 有り金に与りて其後公に致す

其日度成斎

一 倫と奉養所と皇所と二所と

坊五所 極意 極意奉養所 正林院

極意奉養所 極意 極意奉養所 正林院

五老の午の極意 寺吉の午の皇代と云々の

日向寺の極意 寺吉の午の皇代と云々の

以強し保皇と云ふ所より法水西院に二及

節形又津美と云ふことと即令しては流りて所

一 有り金に与りて其後公に致す







十七日壬子麻

入二夜り古市内海ありと西橋板  
リ用りん物く先の板お人り  
西三河多二花次りまう  
大流河のりりかこい  
本展人へは本初そりし毎り  
相承りし室流りしとちし次  
ありはましし車中ちちて坊  
店人おのしぬ人おのしぬ次  
次正のし

先まはつ州の長官様より  
し坊前にお前かしては次  
忠且言の長井より坊前  
人お前かしては次  
お前かしては次  
坊前にお前かしては次  
坊前にお前かしては次  
坊前にお前かしては次







十八日

此書を以て其の意を以て讀み申す所は  
法中長谷部

一 此の書は其の意を以て讀み申す所は

一 念の法を以て其の意を以て讀み申す所は  
他を以て其の意を以て讀み申す所は

十九日

世に於て其の意を以て讀み申す所は  
其の意を以て讀み申す所は

一 此の書は其の意を以て讀み申す所は  
其の意を以て讀み申す所は















寺之

寺之

寺之

未

未

未

三

三

三

以

以

三

三

自

自

自

自

老

老

方

方

方

五

五

五

一

一

二

三





中務省御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

一 御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用

御用















お侍し 柳原の...  
新師 祐松 幸事 居り印

九日

先王の御心 柳原の...  
里保事 柳原の...  
古園行 宜々 幸事 地行 宜々

柳原の... 幸事

一 柳原の... 幸事

十日

一 柳原の... 幸事

一 柳原の... 幸事

一 柳原の... 幸事



入る道平十四日辰申去来池を  
はみる遺言おのり野中  
中名湯佐 彦友 信郷 下尾上

二日 卯

一 上つた山ありてこゝを湯あり桂井中  
然れども山ありて山ありて古市  
そと。通る。山ありて山ありて山ありて  
山ありて山ありて山ありて山ありて  
一 古市通法 老老 女 山 湯あり

一 山ありて山ありて山ありて山ありて

一 山ありて山ありて山ありて山ありて

一 山ありて山ありて山ありて山ありて

一 山ありて山ありて山ありて山ありて

一 山ありて山ありて山ありて山ありて

十日

山ありて山ありて山ありて山ありて  
山ありて山ありて山ありて山ありて  
山ありて山ありて山ありて山ありて  
山ありて山ありて山ありて山ありて



治下... 力新下... 中中  
 万... 同井方以  
 横田... 梅新... 今之  
 此... 所因... 皇元...  
 世... 古...  
 中... 私...  
 以... 望...

免... 今... 且...  
 古... 且...  
 古... 且...  
 古... 且...  
 古... 且...  
 古... 且...  
 古... 且...  
 古... 且...  
 古... 且...  
 古... 且...







お尋ねの件は...  
内印

十六日 舟

三浦半島の事

と述べてある...  
西遊井上八郎...  
舟

とある...  
舟

一 徳川...  
一 徳川...  
一 徳川...

一 徳川...  
一 徳川...  
一 徳川...



未申由白... 三...

カ...

一...

...

...

...

...

...

七...

...

一...

七日

...

...

...

...

...

九日

...

...



一 徳義中一頁の及念はりききり毎のす  
ふりしり中利いしを原を毎のししはれ  
中毎の二季進のりり中の中海而  
人常の節不節徳者中より及知用  
念似する及りしり又あり活修にきり  
修を極中しきり中り為りてきり  
一 物に入る一物に去る人あまの身中  
はるるしり人成るしり物入るしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり

廿日

物々の人と法上南部の事云々  
しりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしり

廿日  
夕海河下所







一、物々皆備、うらやま、  
志、  
乃、

廿九日

名曰  
地、

廿九日

云、  
及、

廿九日

云、  
乃、

廿九日

云、  
乃、



之取分也何中落りて来りて切刻部也  
江

此を考へて七八の之慶分等も精や同也  
并に考へて先法は師一也之考分也  
精不立考分也

問云 夫是は師 宛案 良案  
才二考不立法 一而之考分也

精不問考分也 一  
問云 良案 一 良案 一  
字法 一

右依備録之件

立法 一

計算代具法

長下の上法は法考の定法也

一法考分也 一 一考分也 一 一考分也

一法考分也 一 一考分也 一 一考分也

一法考分也 一 一考分也 一 一考分也



一古市之類... (Faint text, possibly bleed-through)  
 一古市... (Faint text, possibly bleed-through)  
 一古市... (Faint text, possibly bleed-through)  
 一古市... (Faint text, possibly bleed-through)  
 一古市... (Faint text, possibly bleed-through)

九月小

初日... (Faint text)

一古市之類... (Faint text)  
 一古市... (Faint text)  
 一古市... (Faint text)  
 一古市... (Faint text)  
 一古市... (Faint text)







中國寺相考くさし月廿七日  
相公即会打入てははらるる  
新法より上は返すくさるる  
中邦寺より信進り上り

三日  
入奉る所南向を寺に

四月  
寺の上寺一地下高田の地

二月の月二信知ん相考くさし  
相公即会打入てははらるる  
新法より上は返すくさるる  
中邦寺より信進り上り

一會の寺に寺に寺に寺に寺に

相考くさし

高田の地

相考くさし  
相考くさし  
相考くさし



一 半部末の段に於て新口に海  
と云ふ

六日  
新田に於て

六日  
新田に於て  
一 新田に於て  
一 新田に於て

新田に於て

九日  
新田に於て

十日  
新田に於て

十一日  
新田に於て

十二日  
新田に於て



移住ノ事ニ付テ

一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ  
一 諸君ノ御座ル所ニテ





50  
止

紙  
教  
四  
十九  
枚



